

■石田昇 **精神医学者。日本の精神医学界に多大な影響を及ぼすも、アメリカ留学時に同僚を射殺し、以後、精神病院生活。**

いしだのぼる

初の民間工場1875＝ 仙台市東で、代々の藩医を務めた石田家の眞の子に生まれる。9人兄弟の第2子次男。

三つの内乱・1876＝ 1歳： 弟昌人が誕生。

父石田眞は、維新後、東京医学校やヘボンに学び、3年前には、同志と仙台に私立(共立社病院)を創設し副院長になっていたが、

琉球処分・・・1879＝ 4歳： {共立社病院}が{県立宮城病院}になったのを機に勇退し、その後は自宅で診療、日本の小児科医の開祖の一人とされるほどの名医で、患者が門前市を成すほどであったという。

明治14年政変1881＝ 6歳： 弟研が誕生。

新体詩抄・・・1882＝ 7歳： 仙台市の東二番丁小学校に入学、

岩倉具視没・1883＝ 8歳： 弟基が誕生。

秩父事件・・・1884＝ **9歳**：

初の対等条約1888＝13歳： 卒業し、仙台に創設直後の第二高等中学校補充科に入学するが、

帝国憲法発布1889＝14歳：

帝国議会始・1890＝15歳： 第二高等学校に進むも、医学部進学コースにはなっていないかったため、

大津事件・・・1891＝16歳： 父眞が死去。

「若い頃より文才にたけ、**短歌や小説に熱中。**

郡司千島探検1893＝**18歳**：

日清戦争始・1894＝19歳： この年、呉秀三「精神病学集要」刊行。この年発刊された父眞への追悼詩歌集「香酌集」に短歌を収録。

日清戦争終・1895＝20歳： **熊本の第五高等学校予科第三部医科に進学、この頃、医科はのちの長崎大学医学部が対応していた。**校友会(龍南会)の会誌編集担当委員になっている。

子規句歌革新1898＝23歳： **同期の森田正馬らとともに卒業し、上京。作家志向もあったのか、**

Bushidou・・・1899＝24歳： **雑誌(新小説)の懸賞小説に「心の花」が二等賞になった後、1年遅れで、東京帝国大学医科大学に入学、**

田中正造直訴1901＝26歳： 雑誌(学生倶楽部)に短編をいくつか発表。「語学にも堪能で、

教科書疑獄・1902＝**27歳**： **雄島濱太郎の名で翻訳「世界奇書 ドン キホーテー」を出版。**

日比谷公園・1903＝28歳： この年、1年早く卒業した森田正馬が精神病学教室に入局。「卒業し、

日露戦争始・1904＝29歳： 「つくづくぼうしの歌」を作詞、翌年、金須嘉之進の作曲で楽譜が発売される。新潟のご典医の娘秀と結婚。

***唯一人、巣鴨病院内にあった院長呉秀三が主任教授の東京帝国大学精神病学教室に入って助手となり、病**

院の医員にもなる。「新撰精神病学」を執筆、このなかで、Schizophrenieを初めて「分裂病」と訳す。

日露戦争終・1905＝30歳： 長男新が誕生。れまでに創作した作品をまとめて、ガリ版刷りの「短篇小説集」を出し、ドン・キホーテの完訳も企図するなど、作家としての意欲も十分であったが、

満鉄発足・・・1906＝31歳： 「新撰精神病学」出版、好評で翌年には再版。

韓国反日暴動1907＝32歳： この年、弟昌人が台湾総督府に農業技師として赴任、同じ頃、弟研も糖業支援で派遣された。***雄島濱太郎**名で「短篇小説集」を出版し、**精神病学談話会で「精神病患者と滑稽趣味」と題して講演したのを最後に、精神科医に専念するようになり、創作は急減。「新撰精神病学」が呉秀三に認められて、長崎医学専門学校(後の長崎大学医学部)に新設された精神病学科の初代教授に就任。**

伊藤博文暗殺1909＝34歳： この年、弟基が東京帝国大学法科大学を卒業。

韓国併合・・・1910＝35歳： この年、後輩で歌人の斎藤茂吉が東大を卒業して精神病学教室に入っている。

大逆事件判決1911＝**36歳**：

明治天皇没・1912＝37歳：

大正政変・・・1913＝38歳： 次男鐘が誕生。「健全なる精神」を出版するなど、日本の精神医学の草創期に第一人者として活躍、

21ヶ条要求・1915＝40歳： 次男鐘が夭折。この年、近松秋江が発表した「舞鶴心中」の脚本を書いたともいわれ、なお、文才を発揮。

ロシア革命・1917＝42歳： 「それまでの呉門下生同様ドイツ留学予定のところ、第一次世界大戦が起きたため、アメリカに変更、

フロイト思想の詳しい紹介含む「新撰催眠療法」を出版後、斎藤茂吉に後(第2代教授)を託し、ボルチモアの

ジョンズ・ホプキンス大学に留学。船中では、のちの高良とみらとデッキゴルフを楽しむなどしている。

本格政党内閣1918＝43歳： 三男洋三が誕生。***日本での業績に加え、米国雑誌に寄稿した論文などで、シカゴで開催された米国医学心**

理学協会の年次大会に出席、日本から唯一人の名誉会員に推挙されるなど、高く評価されていたが、やがて

、精神に異常をきたし、幻聴に悩まされて下宿を頻繁に替えるうち、研修先のシェppard・プラット病院

で、病院の看護婦長に恋愛妄想を抱くと、同僚のアメリカ人医師ジョージ・B・ウルフがこの恋愛を妨害、

さらには、自分のことをスパイとみていると曲解し、彼をピストルで射殺するに至る(「新撰精神病学」の緒

言で、万人に精神を病む可能性のあることを指摘、その本人が精神を病んだのである)。逮捕され、

一審二審とも、精神異常でなく妬みが動機とみなされ、死刑判決を受けたが、アドルフ・マイヤーの鑑定

で終身刑に減刑されて、メリーランド州立トーンソン刑務所に収容される。まもなく書いた「獄中手記」が、

長崎の地元紙や雑誌(変態心理)に掲載されたが、妄想は「国家的陰謀の畏」に落ちたというまでになり、

大暴落・・・1920＝**45歳**：

原敬首相暗殺1921＝46歳：

水平社結成・1922＝47歳： 長男新が死去。

関東大震災・1923＝48歳： この年、弟の基が東京地裁上席検事となり、朴烈大逆事件などで鬼検事ぶりを発揮、

精神症状は悪化する一方で、州立精神病院に移送されるが、改善が見られず、

日本の後輩からも帰国嘆願があったため、一旦刑を停止する形で送還となり、船中では、つきそってく

れた友人にも我儘な態度で接して困らせ、そのまま(有名な「葦原將軍」も入院していた)松沢病院に入院。

この年、弟の基が田中義一総裁の陸軍機密費問題を扱い始めると、まもなく、東海道線の鉄橋下の小川で変

死体となって発見されたが、アメリカから帰国兄がそのまま松沢病院に入院したもあったことから、わざわざ

、基には精神障害の兆候の無いことを示す意見書が出された。のち、松本清張が「昭和史発掘」シリーズで

詳しく取り上げている。松沢病院での主治医のひとり、後の東京大学医学部精神科教授秋元波留夫で、秋

元は「新撰精神病学」を学生時代に読み、精神医学を志したという。秋元が石田の復権を願い、東京大学で

の最終講義で触れるまで、石田昇をめぐる話は長らくタブーとされてきた。_その後も幻聴が盛んで、独語

・空笑も多く、誇大妄想的な発言を行うこともあり、

この年、台湾総督府勤めが終わって帰国した弟昌人が、熊本農業高校教諭になる。

世界恐慌・・・1929＝**54歳**：

満州事変・・・1931＝56歳：

日中戦争始・1937＝62歳：

健保+総動員 1938＝**63歳**：

「回復することなく、

大政翼賛会・1940＝65歳： **_留学中に発病していた肺結核の悪化により、松沢病院内で没した。**